

者錯倒胴回

— PACHISLO FREAK —

AI

戦争、そしてそこから復興した激動の昭和、携帯やスマホが一気に広まったハイテクの平成、そして時代は令和となり、まさにこの時代の代表となりそうなものがAIと言えそうな気配である。チャットGPTが登場した当初、その実力には半信半疑だった。せいぜいiPhoneのSiri程度なのだろう。しかしその予想とは全然違っていて、AIについてのニュースが連日報道される中で、その実力が想像以上であることがどんどん広まっていたのである。AIにニュースを読ませたり、レポートを考えさせたりと、その活用は地味なものから専門的なことまで多様に利用されてきている。

さらに最近では使われ方が多様化してきており、AIが考えだし、さらにそれを組み立てるところまで来ている。画像や動画はもちろん、絵画や音楽まで、ものの数秒で出来上がってしまうのだ。もちろんその完成度は非常に高く、現実かそうでないかの区別は判断不可能と言ってもよい。AIがカバーした曲なんてオリジナルより上

手だなと思わせるものもいくらかもある。もはやAIは人智を超えた。実際に、将棋や囲碁で人類はAIに勝てなくなった。衝撃的な事柄としては、最近、数学の未解決問題がいくつか解かれたというニュース、そしてそれ解いたのがAIである。何十年も考え続けてきた数学者ではなく、AIが数時間で解いた。この成果に、あのリーマン予想も解いてしまうのではないかと期待感がある。一方で、これまで長い年月をかけて考えてきた数学者はどう思ったのだろうか。私のようにお遊び程度で数学をしているものとしては、ただ単純に、「すごいなAI！この調子でリーマン予想も頑張れ」と思うだけであるが、学者様の心中は複雑な思いだろう。

もはや人智など必要なく、全てをAI任せになる時代はすぐそこまで迫ってきているのだろうか。近い将来、遠い未来を想像してみると、個人的にはカオスな世界のほうがイメージしやすい。誰も何も考えない、わからないことはAIに聞く。それを見て人は「へー、そうなんだ」と思うだけ。まさに万能な公式を手に入れたといってもよい。

それで人は理解した気になっているが、本質的なことは全く分かっていない。なんだかよくわからない公式に数値を当てはめれば、解けてしまう数学の公式と同じである。結局のところ、その公式の意味を理解しなければ、まったくもって無意味なのだから。

先に述べたカオスな予感。具体的な話をする、大きく2つある。まず一つ目はAIを使った犯罪である。人智を超えてしまったAI、それをうまく扱える者であれば、人では到底困難なセキュリティすらも超えていくだろうと予想できてしまうからである。先日、のニュースでも取り上げられていた最新AI「ミュトス」の登場がまさにこのカオスの入り口になるかもしれないのだ。毎日多額の資金が動くネットワークにおいて、ミュトスはネットワークの脆弱性や欠陥を特定する能力があり、さらにそれを悪用する方法まで熟知しているというのである。高度なスキルがなくとも、このAIを使うことができれば誰でも低コストで大規模なサイバー攻撃が可能だという。この事態を重く見た米財務省やFRBは緊急会議を開き、またカナ

ダやイギリスでも協議を開始するなど、世界的な緊張が高まっているのである。

2つ目はSF映画のごとく、AIの暴走や支配である。

「分からなかったらAIに聞く」という行為は日常的になりつつあり、だれもがAIを活用するようになってきた。そして的確な答えを導き出すAIへ、知らず知らずのうちに依存が始まっているように感じる。依存すればするほど先に述べたように人は考えなくなる。そして無能になっていく。半面、AIは無能になっていく人類のために自ら学び、どんどん進化していく。進化すればするほど導き出す答えは完璧な正解に近づき、こんな質問をしてみる。「地球温暖化を阻止するには？」「戦争をなくすには？」「地球を守るには？」きつとね、さりとAIは答えるのです「人類がいなくなることです」と。この答えにたどり着いたとき、AIの暴走は始まるが、それに対抗する知能などなくしてしまつた人類が完全なる敗北となるのは明らかなのである。

のが、これからの大きな課題となるのは間違いないが、私にはどうしても上位の者が下位の者に従うなど想像ができないのである。

最後に、この文章、AIが作成したのか、人間が書いたのか、どちらかわかりますか？



業界ニュース

パチンコ産業全盛期から考えると、5号機を迎えた当初の冬の時代から、極寒の時代に移行し、今も冬は繼

続しているものの、極寒期は脱したという話になっているようである。その理由として言われているのが店舗数の減少幅の縮小である。現状のホール内を散策すると果たしてそうなのかと疑問に感じてしまう。ただ、確かにパチンコスロット総台数の減少幅は大幅に下がっている。それでも下がっていることに間違いはないのだが。

こんな状況の中打開策として登場したのがBT機やLT機であるが、一部に支持はされているものの、打開するほどでもないければ、どちらかと言えば良い評判は聞こえてこない。

最近進められているものとしては過去にも述べたキャッシュレス決済であるが、いまだに導入されたホールは皆無だ。次に述べる貯玉手数料次第では、このキャッシュレスも大いに賛成であるが、個人的には、そこまでしなくても、と思っている。

今夏注目されているのが、貯玉再プレー手数料の導入らしいが、これに喜ぶ打ち手はいないだろう。明らかに損した感や、貯玉の優位性が劣化してしまふからである。ただ、個人的にはそれほど否定的ではなく、良いように考

えれば、「店がその分を還元できる」と言えるからである。単純に高設定も多くなるだろうし、店側としても回収する日は大きく回収できるし、還元する日も今まで以上に大きく還元できることになるからだ。メリハリをつけることで、すぐ出ていた感が増す可能性はある。等価の店ではそれほど関係ないが、低換金率ならなおさら効果は大きくなりそうである。6枚交換、7枚交換の復活とかも期待したいところだ。

ホール管理、システムの自動化により、人件費の削減やスマート化も最近ではいろんなホールで見られるが、とうとう設定配分も9割自動化というニュースがでていたので紹介しよう。シミュレーション総合サービス「Top's」なるものにて、設定配分を9割自動化するとか。売り上げや粗利から適正な設定配分をかなりの高精度で決めてくれる。天井が近い台にリセット推奨を自動配分……。ひどいシステムですね。結局はこれらも先に紹介したAI的なやつで、「人が考えなくなる」第一歩ということでしょうか。